

高級畳表に向く「ひのみどり」の加工特性

農業研究センター 園芸研究所 加工部

担当者:高森 幸光

研究のねらい

「ひのみどり」は高級畳表用品種として、本県の奨励品種に採用された。

この品種は、従来の品種に比べて明らかに茎が細いなど、特徴のある品種である。

そこで、畳表の加工の面からみた品種特性を本県の主力品種である「岡山3号」と比較して明らかにし県産ブランド畳表「ひのさらさ」評価の資料とする。

研究の成果

「ひのみどり」は「岡山3号」に比べて、次のような加工特性を有する。

- 1 畳表1枚当たりの必要いぐさ本数は、茎が細いため、約20%多く茎を織り込むことができる。
- 2 畳表の評価は、いずれの選別長でも優れ、茎が細いため蓮面がきめ細かで品位が高く、変色茎や先枯れが少ないため畳表全体の色調が均一で優れる。
- 3 畳表の退色色調は、綜味が緩やかに退色し、かつ、明るく退色する。
- 4 畳表退色後の果すじ茎の発生は、約半分と明らかに少ない。

以上のような特性を発揮して作られたブランド畳表「ひのさらさ」は、従来品種の同規格品に比べて約5割程度高い価格で取り引きされ、市場の評価を得つつある。

普及上の留意点

- 1 1枚の畳表を製織するのに約20%長く時間を要する。
- 2 「ひのみどり」を使用したブランド畳表「ひのさらさ」の加工に当たっては、「ひのさらさ加工基準」を厳守する。

表1 1000本製織長（現地5ヶ所、3ヶ年平均）

品種名	1000本製織長(cm)		同左・岡山3号を100とした比率(%)		1帖当たりの必要本数岡山3号を100とした比率(%)	
	120cm～	105～120cm	120cm～	105～120cm	120cm～	105～120cm
ひのみどり	30.5	32.0	82	86	122	117
岡山3号	37.1	37.4	100	100	100	100

表2 ひのみどりで製織した畳表の評価

作物名	年度	品位	元白	変形茎	先枯れ	総合
120cm以上	平成8年	3.6	3.6	4.0	3.5	6.4
	平成9年	3.9	3.5	4.0	3.5	7.3
	平成10年	4.3	3.6	4.1	4.1	7.6
105cm～120cm以上	平成8年	3.7	3.3	3.9	3.5	6.3
	平成9年	4.1	3.4	4.1	3.5	7.0
	平成10年	4.1	3.1	4.1	3.7	7.2

注) いずれも数字が大きいほど評価が高いことを示す。

品位～先枯れの各評価項目は岡山3号を3点とした5段階評価、総合は岡山3号を5点とした9段階評価。

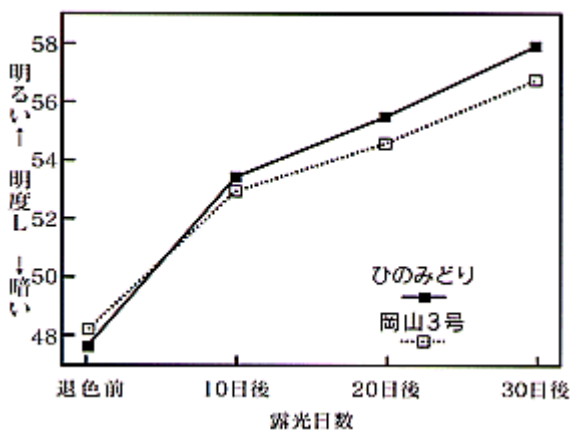


図1 畳表中央部退色時の明度の推移

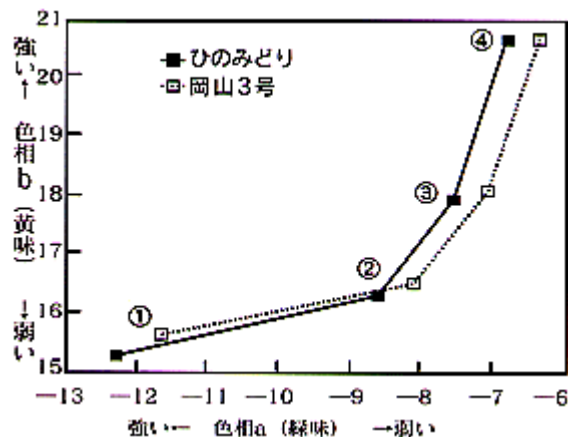


図2 畳表中央部退色時の緑味と気味の推移

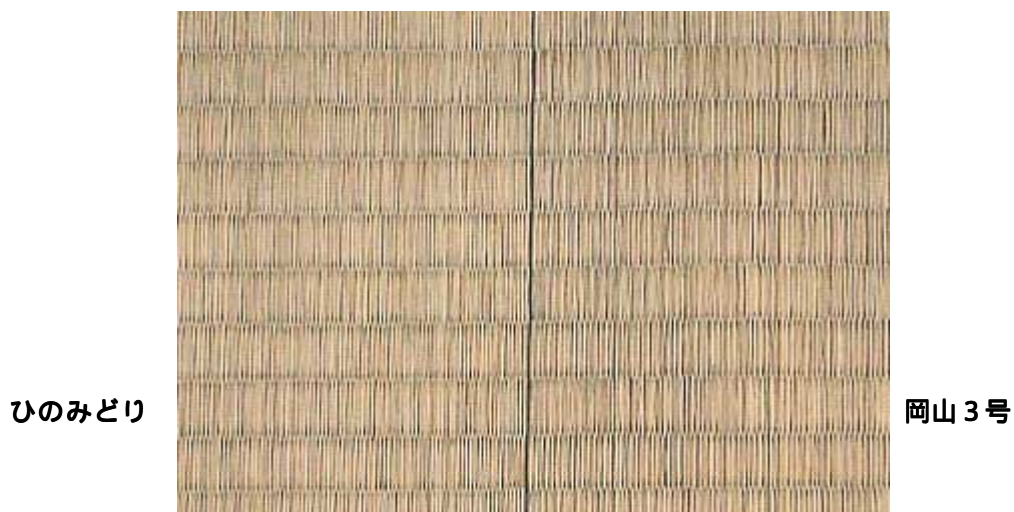


写真1 直射日光露光30日後の黒すじ茎の発生状況（平成9年産105cm～120cm）